



このコーナーでは、水資源機構の環境保全の取り組みを紹介します。

河川環境の改善を目指して 一庫ダムの取り組み

河川環境の変化

昭和58年に完成した一庫ダムは今年で管理開始33年目になります。

ダム下流はアユ釣りで有名な都市近郊の河川でしたが、ダムの完成により、下流への土砂供給が無くなったことや流況が安定し流量の変化が少なくなったこと等により、魚類の産卵床に必要な砂が無くなり、アユやオイカワの餌となる藻類の更新が進みにくくなったこともあり、次第に魚類数が減少してきました。

このため平成14年より、学識経験者の指導の下、一庫ダムでは猪名川漁業協同組合と共同で河川環境の改善に取り組んでいます。

河川環境改善の取り組み

河川環境の改善策として、主に4つの取り組みを紹介します。

① 下流土砂供給

毎年5月初旬に、放流量を一時的に増加させるとともに、重機により川の流れの中に土砂を直接投入する土砂供給を行っています。これにより、魚類の産卵床に必要な砂が供給され、アユやオイカワの餌となる藻類の剥離・更新が促進されます。



② 弾力的管理試験

弾力的管理とは、洪水調節に支障を及ぼさない範囲で、洪水調節容量の一部に流水を貯留し、

これを適切に放流することにより、ダム下流の河川環境の改善を図るものです。6月16日から1ヶ月間において、洪水貯留準備水位（洪水期制限水位）に対し+1.4m、容量にして約113万m³を確保し、放流量を一時的に増加させるフラッシュ放流や産卵期に相当するこの時期の流況改善に資するための試験運用を行っています。

③ 貯水池外来魚駆除

洪水期（6/16～10/15）に向けた貯水池の水位低下時期を利用して、貯水池内に定置網を張り、魚類調査を行っています。捕獲した在来魚は計測後に生かしたまま放流し、外来魚は持ち帰り、堆肥化しています。



ブルーギル



魚粉

④ 川を耕し隊

一庫ダムでは、貯水池を海と見立てて、流入河川を遡上して産卵する「湖産アユ」が生息しています。アユの産卵を促すために、猪名川漁業協同組合と協力して産卵期に河床を掻き起こす活動を実施しています。

河川環境改善効果

これまでの取り組みにより、ダム下流ではオイカワやヨシノボリ類などの生息数が増え、ダム湖では外来魚の減少、陸封アユの再生産等の効果をあげています。一庫ダムでは、これからも河川環境の改善に取り組んでいきます。